

「助け合う心 熊本に」 東日本大震災で被災、大槌のしんきゅう師・佐々木さん きょう出発 /岩手

毎日新聞 2016年4月28日 地方版

岩手県



仮設住宅などで訪問活動を行う「大槌健康サポートセンター」のスタッフと共に、しんきゅう治療器具などを準備する佐々木賀奈子さん（右）＝大槌町大槌で

避難所で治療

「困った時はお互い様。助け合う心を熊本へ届けたい」。東日本大震災で被災しながら、今も仮設住宅などで被災者の治療に奔走する大槌町のしんきゅう師、佐々木賀奈子さん（53）が29日から、熊本県益城（ましき）町で熊本地震の避難所となっている小学校で被災者の治療と心のケアにあたる。

大槌町出身の佐々木さんは、海から約2・5キロの国道45号沿いでしんきゅう院を営んでいた。5年前のあの日、自宅と経営する診療所が津波にのまれながらも、患者を高台に逃すなどして九死に一生を得た。すぐに、治療器具を持ち出して骨折や脱臼などで動けなくなった人の手当てに駆け回った。

津波に親戚や友人、財産を奪われた。それでも「救援活動に打ち込むことで、平常心を保つことができた」と振り返る。

熊本地震では、相次ぐ余震で自宅を離れざるを得ない被災者が、一時10万人を超えた。「あの時の大槌と同じ。治療を必要としている人に恩返ししたい」。佐々木さんの思いが募った。

そんな心中をおもんぱかって、元自衛隊員の夫和久さん（53）は熊本行きを促した。「飛行機も新幹線も予約が取れないなら、車を出す」

28日夜、自家用車で益城町に向かう予定だ。現地では、国際医療NGO「AMDA」（岡山市）が拠点を構える広安小学校で、医師や理学療法士、介護士らと合流。車中泊も含めて、避難する1000人超のニーズに合わせ、ゴールデンウィーク中に治療にあたる。